

平成29年3月2日

東近江市議会議長 河 並 義 一 様

会派名： 東近江市民クラブ

東近江市議会議員： 市 木 徹

発 言 通 告 書

次のとおり発言したいから通告します。

発言の種別	<input type="checkbox"/> 質 疑	<input checked="" type="checkbox"/> 代表質問	<input type="checkbox"/> 一般質問	<input type="checkbox"/> 討 論
発 言 の 要 旨				答弁を求める者
項 目	内 容			
1. おぐら市政2期目の所信表明について	(1)旧1市6町のスケールメリットを生かしたまちについて ①具体的な事柄をもって1期4年でどのような種を撒いたのか。2期4年でどのように育てていくのか。また実を結ぶためどのように進めるのか ②地方創生や活性化について抽象的な答弁でなく、市民が期待する事業評価目標は			市長
2. 平成29年度当初予算案の概要について	(1)人と地域が共に成長できるまちについて ①コミュニティ活動の推進について ・SIB実証事業における中間支援組織の明確な位置づけを伺う ・SIBを含め、行政コストダウン、成果達成型委託報酬制度、民間活用の在り方や戦略は ②妊娠・出産・子育ての支援について ・今後4年を目安とした子育て世帯の推移は。また、施設並びに保育士の確保、目標待機児童ゼロは可能なのか ・第3子には今以上の手厚い支援策を考えているのか ・第2子の保育軽減策や切れ目のない支援の具体的施策は			担当部長

	<p>③未来の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の理想とする人口構成や年代分布は ・学校、体育施設の改修がすべて完了する目標年度は 	
	<p>(2)誰もが健やかに笑顔で暮らせるまちについて</p> <p>①地域ぐるみで支える福祉と医療について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度からの市の実情にあった介護予防事業の全体像は ・給付型から支援型への変更で利用料金はどうか ・介護サービス成果報酬制度を導入し、要支援者から要介護者への移行を抑え込めた分は、行政コストダウンと報酬に振り分け、民間と行政の双方がともに利益を得られるようにならないか ・障害者福祉事業活用型の空き家・空き店舗改修支援事業について、活用できる対象建物の確保及び事業者の見込みに対する考えは ・地域生活拠点整備事業推進の考えは、また現在どのような状況にあるのか ・産婦人科の現状、病院数、東近江市内での出産数など、数字を示し、切れ目のない医療支援について産婦人科の政策方針は <p>②自然豊かで快適な生活環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの本数を増やし、不便なデマンド型を廃止することも考えては ・陸運局管理のバス路線営業でなく、融通性のある市内循環福祉バスも考察しては 	担当部長
	<p>(3)市民の暮らしを支え活力を生み出すまちについて</p> <p>①活力ある農林水産業の振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産創造・ネットワーク事業での、量販店に向けた流通の仕組みとは <p>②商工業の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化などを含め、今後東近江市の雇用者数をどれほど増やす計画目標であるのか 	担当部長

